

総合人間科学 法学

1-1 構成員

平成29年3月31日現在

教授	1人
病院教授	0人
准教授	0人
病院准教授	0人
講師(うち病院籍)	0人 (0人)
病院講師	0人
助教(うち病院籍)	0人 (0人)
診療助教	0人
特任教員(特任教授、特任准教授、特任助教を含む)	0人
医員	0人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生(うち他講座から)	0人 (0人)
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員(教務職員を含む)	1人
その他(技術補佐員等)	0人
合 計	2人

1-2 教員の異動状況

大磯 義一郎(教授)(平成24.4～現職)

2 講座等が行っている研究・開発等

1	(1)研究・開発等のテーマ名 医療安全対策に関する検討
	(2)研究・開発等の背景、目的、内容の概略 2015年10月から施行された医療事故調査制度はWHOドラフトガイドラインに準拠した医療安全のための学習システムである。制度運用において法令に即した、医療安全に資する事故調査の方法を検討・立案する。
2	(1)研究・開発等のテーマ名 医療訴訟に関する検討
	(2)研究・開発等の背景、目的、内容の概略 民事医療訴訟、刑事医療訴訟につき、各々、判例について調査し、その問題点を抽出し、その解決方法について、医療関連法規全体の連関性を考慮しつつ検討を行う。
3	(1)研究・開発等のテーマ名 医療の現代的問題についての検討
	(2)研究・開発等の背景、目的、内容の概略 終末期医療のあり方、我が国における先端研究のあり方、インフォームド・コンセント、および個人医療情報の取り扱い等現代的な医療問題について、調査・検討を行う。

3 論文、症例報告、著書等

	平成28年度
(1)原著論文数(うち和文のもの)	1編 (1編)
そのインパクトファクターの合計	0.000
(2)論文形式のプロシーディングズ及びレター	0編
そのインパクトファクターの合計	0.000
(3)総説数(うち和文のもの)	0編 (0編)
そのインパクトファクターの合計	0.000
(4)著書数(うち和文のもの)	2編 (2編)
(5)症例報告数(うち和文のもの)	0編 (0編)
そのインパクトファクターの合計	0.000

(1) 原著論文

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

筆頭著者、共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1. 大磯義一郎, 自主返還の法的根拠, 診療研究, 514, 26-29, 2017	0.000

論文数(A)小計 1 うち和文 1 IF小計 0.000

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

論文数(B)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

論文数(C)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

(4) 著書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

著者: タイトル, 出版社名, 巻, 初頁-終頁(頁数), 発行年.	IF
1. 大磯義一郎, 大滝恭弘, 山田奈美恵, 医療法学入門 第2版 ※加筆修正, 17-85, 113-196(308), 医学書院, 2016	

著書数(A)小計 1 うち和文 1

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

著書数(B)小計 0 うち和文 0

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

著者: タイトル, 出版社名, 巻, 初頁-終頁(頁数), 発行年.	IF
1. 岡庭豊, レビューブック公衆衛生2017 ※加筆修正, 90-91, 102, 110-113, 120-124, 182-186, メディックメディア, 2016	

著書数(C)小計 1 うち和文 1

4-1 特許等の知的財産権の取得状況

	平成28年度
特許等取得数(出願中含む)	0 件

4-2 薬剤、医療機器等の実用化、認証、承認、製品化、販売等の状況

	平成28年度
実用化、認証、承認、製品化、販売数	0 件

5 医学研究費取得状況

	平成28年度	
	件数	金額 (万円未満四捨五入)
(1) 科学研究費助成事業(文部科学省、日本学術振興会)	0 件	0 万円
(2) 厚生労働科学研究費	0 件	0 万円
(3) 日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成	0 件	0 万円
(4) 科学技術振興機構(JST)による研究助成	1 件	762 万円
(5) 他政府機関による研究助成	0 件	0 万円
(6) 財団助成金	0 件	0 万円
(7) 受託研究または共同研究	0 件	0 万円
(8) 奨学寄附金	0 件	0 万円

(4) 科学技術振興機構(JST)による研究助成

1. 未病に取り組む多世代共創コミュニティの形成と有効性検証、平成26年11月～29年10月、分担、慶応義塾大学、渡辺賢治	762万円
---	-------

6 大型プロジェクトの代表、総括

7 学会活動

	(1) 国際学会	(2) 国内学会
1) 基調講演・招待講演回数	0 件	12 件
2) シンポジウム発表数	0 件	2 件
3) 学会座長回数	0 件	1 件
4) 学会開催回数	0 件	1 件
5) 学会役員等回数	0 件	4 件
6) 一般演題発表数	0 件	

(2) 国内学会の開催・参加

1) 学会における特別講演・招待講演

1. 大磯義一郎、医療事故調査制度を考える、日本整形外科医会、ホテルグランドパレス、2016年4月
2. 大磯義一郎、医療事故調査制度の概要、放射線診療部門会議、富山国際会議場、2016年5月
3. 大磯義一郎、国立大学法人における個人情報保護、第24回国立大学法人等幹事協議会 東海・北陸支部会、ホテルクラウンパレス浜松、2016年6月
4. 大磯義一郎、遠隔診断に絡んだ法的問題～医療者が抱えるリスク～、第52回日本小児循環器学会総会・学術集会、東京ドームホテル、2016年7月
5. 大磯義一郎、医療事故調査制度の概要と放射線診療関連の医療事故例、九州大学放射線科関連部長会議、九州大学、2016年8月
6. 大磯義一郎、介護・リハビリ訴訟の実態と対策、日本リハビリテーション医学会、江崎ホール、2016年9月
7. 大磯義一郎、法的環境の変化がもたらす医師对患者・家族関係の変遷、第81回日本泌尿器科学会東部総会、リンクステーションホール青森、2016年10月
8. 大磯義一郎、現場医療従事者に対するメンタルケア・メディエーション、第44回日本救急医学会、グランドプリンスホテル新高輪・国際館パミール、2016年11月
9. 大磯義一郎、医療事故調査制度の現在と課題、愛知県周産期医療協議会、名古屋第一赤十字病院、2016年12月
10. 大磯義一郎、科学としての医療安全とその手法、医療安全支援協議会、山形大学、2016年12月
11. 大磯義一郎、医療事故調査制度の現在及び医師法21条の行方、日本整形外科医会、神戸国際会議場、2017年1月
12. 大磯義一郎、医療者が知っておくべき医療安全実務、日本臨床整形外科医会、品川プリンスホテル、2017年2月

2)シンポジウム発表

1. 大磯義一郎、本件事案の概要と論点整理、第7回医療法学シンポジウム、日経カンファレンスルーム、2016年11月
2. 大磯義一郎、我が国の医療事故当事者が置かれる法的状況、第11回 医療の質・安全学会学術集会、幕張メッセ国際会議場、2016年11月

3)座長をした学会名

1. 大磯義一郎、第11回 医療の質安全学会集会、幕張メッセ国際会議場、2016年11月20日

4)主催した学会名

1. 大磯義一郎、主催者、第7回医療法学シンポジウム(日経カンファレンスルーム)、2016年11月27日、90名

5)役職についている国内学会名とその役割

1. 日本精神神経学会 情報管理委員会 幹事
2. 全国医学部長病院長会議 大学病院 医療事故対策委員会 委員
3. 東京地方裁判所 司法と医療の相互理解シンポジウムPT 委員
4. 日本医学教育学会 プロフェッショナリズム・行動科学委員会 委員

8 学術雑誌の編集への貢献

	(1)外国	(2)国内
学術雑誌編集数(レフリー数は除く)	0 件	0 件

9 共同研究の実施状況

	平成28年度
(1)国際共同研究	0 件
(2)国内共同研究	0 件
(3)学内共同研究	0 件

10 産学共同研究

	平成28年度
産学共同研究	0 件

11 受賞

(3)国内での授賞

1. 大磯義一郎、医学生・研修医の内科学会ことはじめ 2016 指導教官賞、2016年4月
2. 大野航、医学生・研修医の内科学会ことはじめ 2016 優秀演題賞、2016年4月
3. 榎本裕一、第48回日本医学教育学会 優秀演題賞、2016年7月

12 新聞、雑誌、インターネット等による報道

1. 報道で研修選択も、中日新聞、2016年5月27日
2. 終末期医療 本人の意思は、朝日新聞、2016年8月12日
3. 通院で中期中絶の実態、読売新聞、2016年10月2日
4. 柳原病院事件 電車の”わいせつ事件”と同列に扱うな!、m3.com、2016年11月28日
5. 外来1回3円 入院1日12円で無過失補償制度が実現可能、m3.com、2016年12月2日
6. 認知症患者列車事故に隠されたインパクト、日経メディカルOnline、2016年4月6日
7. 医療事故調は他施設共同試験と同じ感覚で挑め、日経メディカルOnline、2016年11月11日

13 その他の業績

1. 馬場皓大、認知症高齢者の正確な精神・身体状況を把握するための調査方法の検討、第66回日本病院学会、盛岡市民文化ホール、一般口演、2016年6月、協同研究者(学生指導)
2. 井上綾香、介護施設利用者に適する介護度進展評価法の提言、第66回日本病院学会、盛岡市民文化ホール、一般口演、2016年6月、協同研究者(学生指導)
3. 寺澤美晴、高齢者の交通手段から検討する外出行動と健康、第75回日本公衆衛生学会総会、グランフロント大阪、一般口演、2016年10月、協同研究者(学生指導)
4. 小澤由季、多世代共創プロジェクトに対する要介護者への適応性の評価と参加者の増加に向けた検討、第75回日本公衆衛生学会総会、グランフロント大阪、一般口演、2016年10月、協同研究者(学生指導)
5. 鈴木孝昭、眼科診療におけるリスクマネジメントについて、日本臨床眼科学会、国立京都国際会館、一般口演、2016年11月、協同研究者

6.	山本実果、訴訟に発展した医療事故の曜日・時間帯別、診療科別傾向から見た再発防止策の検討、第11回 医療の質・安全学会学術集会、幕張メッセ国際会議場、一般口演、2016年11月、協同研究者(学生指導)
7.	大野航、医療事故における「金銭的損害」を考慮した医療事故リスクの再考、第11回 医療の質・安全学会学術集会、幕張メッセ国際会議場、一般口演、2016年11月、協同研究者(学生指導)
8.	森亘平、研究資金に応じた時間の確保による臨床研究推進の体制、医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ 2016、東京国際フォーラム、テーマ別討論会、2016年4月、協同研究者(学生指導)
9.	大野航、医療事故報道の臨床研修マッチングに及ぼす影響、医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ 2016、東京国際フォーラム、ポスター発表、2016年4月、協同研究者(学生指導)
10.	岡崎幸治、糖尿病罹患中に発生した肝細胞癌と血糖コントロールに関する検討、医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ 2016、東京国際フォーラム、ポスター発表、2016年4月、協同研究者
11.	徳山喜心、医学生時からの学会参加がもたらす研究医志望者数増加の可能性、第48回日本医学教育学会大会、大阪医科大学、ポスター発表、2016年7月、協同研究者(学生指導)
12.	榎本裕一、医学部における社会科学教育としての医療法学—その狙いと実際—、第48回日本医学教育学会大会、大阪医科大学、ポスター発表、2016年7月、協同研究者(学生指導)
13.	個人情報保護、医療事故の法的側面について、大磯、日本医科大学、臨床研修医、日本医科大学、2016年4月7日
14.	刑事訴追から医療者を守る—医療事故調査報告書の問題—、大磯、大阪府立急性期・総合医療センター、病院職員、大阪府立急性期・総合医療センター、2016年4月1日
15.	医療事故が起きた時の対応と注意点、大磯、公立豊岡病院、病院職員、公立豊岡病院、2016年6月2日
16.	院内事故調査委員会制度～患者説明と診療録記載の重要性について～、大磯、国立病院機構横浜医療センター、病院職員、国立病院機構横浜医療センター、2016年6月14日
17.	医療事故調査制度のその後について、大磯、浜松医療センター、病院職員、浜松医療センター、2016年6月16日
18.	医療の質と患者安全について、大磯、倉敷中央病院、病院職員、倉敷シーサイドホテル、2016年7月22日
19.	医療者に求められる患者説明と診療録記載内容、大磯、防衛医科大学、病院職員、防衛医科大学、2016年7月25日
20.	医療事故調査制度に係る最新動向、大磯、自治体病院共済会、病院管理者、静岡呉服町スクエア、2016年8月26日
21.	医療事故調査制度発足1年が経過して、大磯、静岡厚生病院、病院職員、静岡市茶市場、2016年10月14日
22.	医療事故調査制度発足1年が経過して、大磯、静岡県保険医協会、協会会員、静岡パルシェ、2016年10月21日
23.	医療法学のすすめ、大磯、足立保健所生活衛生課、医療従事者、竹の塚地域学習センター、2016年11月7日
24.	医療者に求められる患者説明と診療録記載内容、大磯、北区保健所、医療従事者、北区医師会館、2016年11月21日
25.	医療事故調査制度の現在と課題、大磯、静岡県病院協会、協会会員、あざれあ、2016年12月5日
26.	医療事故調査制度のその後について、大磯、浜松医療センター、病院職員、浜松医療センター、2016年12月8日
27.	科学としての医療安全とその手法、大磯、名古屋掖済会病院、病院職員、名古屋掖済会病院、2017年1月12日
28.	医療法学、大磯、東京都特別区職員研修所、研修所職員、特別区職員研修所、2017年1月16日
29.	診療科別訴訟件数と争点 日常診療における注意点、大磯、全国国立病院院長協議会 関東信越支部勉強会、協会会員、東京文化会館、2017年1月20日
30.	終末期の意思決定に対する法的考察、大磯、大牟田病院、病院職員、大牟田病院、2017年2月17日
31.	医療法学のすすめ～精神科医が知っておくべき法知識～、大磯、「精神科医療の今後を考える」セミナー、医師、東京コンファレンスセンター・品川、2017年3月10日
32.	医療法学のすすめ～精神科医が知っておくべき法知識～、大磯、医療安全を考える会、医師、飛騨高山美術館、2017年3月24日
33.	MediLegal 特別編「医療事故調査制度」の概要と展望、CareNet、2016年4月
34.	MediLegal 精神科領域の巡回監視義務の範囲は？、CareNet、2016年7月
35.	MediLegal 医療事故調査制度スタートから1年が経過して、CareNet、2016年10月
36.	MediLegal 真実を曇らせる後知恵バイアスとは？、CareNet、2017年3月
37.	ナース×医療訴訟 総論：看護師が知っておくべき3つの法的責任、看護roo、2016年10月
38.	ナース×医療訴訟 療養上の医療事故①：転倒、看護roo、2017年1月
39.	ナース×医療訴訟 療養上の医療事故②：身体拘束(身体抑制)、看護roo、2017年3月